

**(松下議員)**

知事は、国内はもとより国外も含め、今まで多くの空港をご利用されてきたと思います。それぞれの地域でそれぞれの特性を持った空港が存在すると思いますが、様々な空港利用の経験が大変に豊富であると思われる知事の見方から見て、北九州空港の魅力はどのようなところにあるとお考えになるのか、知事のご所見をお尋ねします。

【知事】

北九州空港は、全国でも数少ない24時間利用可能な空港です。このため、早朝・深夜便の運航が可能であり、九州で唯一、貨物専用便が就航しています。また、海上空港であり、岸壁も備えていることから、海上交通と航空輸送を組み合わせたシー・アンド・エア輸送も実施されています。

さらに、東九州自動車道へアクセスする苅田北九州空港インターチェンジや、物流の要である国際拠点港湾の北九州港、重要港湾の苅田港などに近接しており、人・モノの輸送の利便性が非常に高い。加えて、空港周辺には、産業用ロボットの安川電機、自動車では日産、トヨタなど、物づくり産業が集積しており、そこで製造された製品や部品などが輸送されています。

今後、熊本県の TSMC が稼働し、また、半導体製造の「後工程」の世界最大手である A S E の北九州市への進出が実現すれば、半導体関連貨物の輸送の増加が期待されます。

冒頭申し上げた北九州空港自身が持つ強みに加え、充実した交通インフラと周辺地域のポテンシャルが相まって、北九州空港の魅力が形成されていると考えます。

(松下議員)

北九州空港の魅力をさらに高め、利用促進を進めていくには、国や北九州市、苅田町等との緊密な連携が欠かせないと考えます。3年後の北九州空港の滑走路3,000メートル延伸に向け、いよいよ関係機関との連携を緊密に取っていかなくてはならない時期にあると思います。そこで、知事にお伺いします。今後、国や関係自治体等と協力しながら、どのように北九州空港の利用促進を進めていくのか、お尋ねします。

【知事】

県では、北九州市や苅田町、地元経済団体などで構成する「北九州空港利用促進協議会」において、利用促進や機能強化に取り組んでいます。旅客便については、国際定期便の就航及び国際チャーター便の運航に対する助成制度を設け、既存路線の早期復便や、新規路線の誘致に取り組んでいます。また、空港アクセスの利便性向上のため、福北リムジンバスの運行に加え、バスの乗降地点に接続する相乗りタクシーの実証事業にも取り組んでいます。

貨物便については、国際貨物は、滑走路が3,000mに延長され、長距離の貨物専用便の運航が可能となることを見据えて、域内の輸送需要の活発化が見込まれる半導体関連貨物を北九州空港に取り込むことを目的として、その輸送費用の一部を助成する制度を今年度から新たに開始しました。この制度を貨

物利用運送事業者や荷主に紹介し、北九州空港の利用を働きかけ、集貨の促進に取り組んでいます。

また、国内貨物については、今年4月に就航したヤマトグループ・JALグループによる貨物専用便を利用して貨物を輸送する場合に、輸送費用の一部を助成する制度を、今年度から新たに開始しています。

国においては、令和9年8月の供用開始に向け、滑走路延長事業に取り組むとともに、貨物地区における上屋施設の整備などの機能強化に取り組んでいるところです。

今後とも、北九州空港のさらなる発展に向け、国が行う機能強化の取組との連携を図るとともに、北九州市や苅田町など北九州空港利用促進協議会一丸となって取り組んでまいります。